

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102073		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム レーブそとめ貳番館		
所在地	長崎市上黒崎町2199番地15		
自己評価作成日	令和4年9月29日	外部評価結果確定日	令和4年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgvoosvcId=4271102073-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgvoosvcId=4271102073-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年10月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は自然豊かな山頂に建っており、庭先からは外海の海を望むことができます。また、四季折々の花々などを施設周辺で見ることができますので、遠出しなくとも花見や散歩など楽しむことができます。入居者の皆様が家庭に居るような気持ちで、安心して笑顔で毎日穏やかに過ごしていただけるように、職員一同情報を共有しお世話をしています。

協力医療機関の医師等による月2回の定期往診や口腔ケア、状態に応じた受診等も行い入居者の健康管理にも努めています。体力づくりや下肢筋力の低下防止を目的とした立位訓練も2年前より導入しており、皆様毎日張り切って参加されています。コロナ禍で制限される事が多い中、誕生会や季節の行事、レクリエーション等行い楽しんでいただいております、その様子を毎月個人だより・レーブ貳番館だよりを作成し、ご家族に送付しお伝えしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

五島灘を見渡せ、緑豊かで静かな環境にホームはある。食事は、職員が丁寧に優しい味付けで調理し、入居者と職員が同じ食卓を囲み、会話が弾み賑やかである。また、入居者に笑顔で寄り添うことで共感的にコミュニケーションが取れている。職員の手が足りない時は、職員間で話し合い、業務改善を行い、連携し協力している。介護計画書は、詳細に支援内容等が明記され、筋力低下防止の為に生活リハビリを取り入れている。嚥下体操と立位訓練等は、ほぼ全員参加で行われ、体を動かすレクリエーションを度々行い、入居者同士で楽しんでいる。防災訓練を毎月一回実施し、避難訓練では、役割を表示した訓練用ピスを着用し、実践的な訓練を行っている。また、耳が聞こえない入居者の為に職員全員が手話を覚えることを課題にたて次の訓練に繋げている。職員からは、入居者のことを一番に考え、満足できる介護サービスの提供を常にめざしている姿勢が見られた。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の3つの理念を皆で共有し、笑顔の多い施設づくりに努めている。 また、朝礼の際は理念唱和を行っている。	月初めに行う、法人全体の朝礼において理念の唱和を行っている。職員は、ホームの方針である、入居者に笑顔で対応することを常に心がけ、接している。法人は、理念を法人や職員の適切な目標として、目標管理を導入する構想を立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交通安全期間中には地域の立哨を行ったり市民大清掃に参加して交流している。	コロナ禍前は、学童クラブとの交流や法人主体で行う夏祭等の行事に地域の方が多く参加するなど地域住民とは顔なじみの関係が築かれていたが、今はできていない状況である。職員は、交通安全週間中の通学路の立哨(定点見守り)、また市民大清掃日に道路沿いの草刈りで地域に貢献している。専門学校の実習生を受け入れ、レクリエーションをして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に地域の代表の方々に参加していただき、情報を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者の状況やホームでの取り組み等を報告し、参加者の皆様に助言・ご意見をいただきサービスの向上に繋げるよう努めている。 (2年前よりコロナの影響で書面での会議を実施)	運営推進会議は、対面での開催は行わず書面会議となっている。幅広い立場の人が会議に参加しており、管理者は、入居者の状況、ホームでの活動、防災訓練を議題にあげ、説明文書とレープそとめ式番館たより等の関連資料をメンバーへ郵送し、全員から意見や質問をもらっている。質問の回答後、議事録を作成し郵送か手渡しでメンバーへ届けている。	運営推進会議には、レープそとめ式番館から家族の代表として一名が参加されている。この先、参加する家族を増やすことをめざし、運営推進会議について家族へ周知をしたり、運営推進会議の内容をお知らせすることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の担当者に運営推進会議に参加していただき、現状を報告している。また、弐番館だよりも配布している。</p>	<p>運営推進会議(書面会議)において、行政や地域包括支援センターの職員とは意見交流ができています。行政からは、地域の催し物等の案内やホームの情報提供を求める多くのアンケートが届いている。管理者は、アンケート調査に回答をして返信し、行政との協働関係を築いている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>高齢者権利擁護委員会を中心に法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員全員が実践し定着している。</p>	<p>法人の高齢者権利擁護委員会において、職員の不適切ケアの確認を行い、特に言葉遣いを重点に置き、周知・指導をしている。また、法人全職員を対象に年二回以上の研修を行い身体拘束や虐待をしない取り組みを実施している。最近、ホームではセンサーの代わりに眠りセンサーを導入した。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者権利擁護委員会が企画した内部研修に参加するなどして得た情報を共有し、日々のケアに生かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修などに参加する機会を持ち、成年後見が必要な時に支援ができる体制がとれるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書の範囲でご家族に説明を行い理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族の意見や要望は職員間で共有し検討して運営に反映させている。	意見箱の設置は、期待通りには活用できていない。職員は、面会で訪れるご家族と話す機会を設けているが、元気で暮らしてほしいと思いを伝えられ、謝意を示すだけである。ホームとしては、外出についての要望には応じられないため、代わりにレクリエーションや行事を増やすなどの対応をとっている。入居者の生活の様子や行事等の様子が伝わるように、個人だよりやレーブそとめ弐番館だよりを一ヶ月に一度ご家族へ郵送していることが家族との信頼関係構築の一つにあげられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回行うレーブ会議で職員の意見や要望等を聴き対応している。	主に、月一回のレーブそとめ弐番館会議が、職員の意見交換の場となっている。会議では、入居者の状況を中心に、行事の内容や準備、業務の改善など話し合っている。入居者の筋力低下を防ぐために、職員が提案した立位訓練は、入居者が自発的に体操をする意思を示し朝の日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ストレスチェック制度を導入し、職員一人ひとりの状態を把握してやりがいを持って働ける職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われている内部研修への参加で、技術や知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との交流はあるが、外部の同業者と交流する機会はほとんどない状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を職員間で共有し、安心して生活できるよう努めている。 また、日々の生活の中で出てくる言葉や表情を大切にして、入居者に寄り添ったケアをすることで信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解して、ホームとしてどのようなことができるか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに対応できる事は実行し、できない事も検討できる限り対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で一人ひとりができる事を役割として、お手伝いをしてもらうことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの本人の様子をレープ式番館だよりや個人だよりにて伝え、本人の情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナの影響で長期にわたり外出もできない状況で、慣れ親しんだ場所に行くことはできないが窓越し面会や電話等でご家族や知人との交流が継続できるよう支援している。	入居者は、コロナ禍の為、墓参りや買い物等の馴染みの場所に外出ができていない。ご家族や友人が月数回ホームに訪れ、入居者と網戸越しで面会を行っている。また電話でご家族等と会話ができるよう職員が対応している。敬老会前、職員が準備したカードにご家族がメッセージを書き、敬老会当日にメッセージを読み上げると入居者はいたく喜んでいる。また、隣接する同法人のグループホームの入居者、職員と夏祭り等の行事を一緒に行い、顔馴染みの関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	居間のソファ等で一緒にテレビを見たり、 お喋りできるようにしている。また、レクリ エーションや手作業、立位訓練等皆で行い 交流を図っている。食卓の席にも配慮して いる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談・支 援に努めている。入院中も家族や病院と連 絡を取りあいながら、2週間以内であれば退 居せず戻って来れるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者一人ひとりの思いや希望・意向など を、日々の生活の中での言葉や表情からく み取り、把握に努めている。	自分から話をしない入居者には特に、頻繁 に声掛けを行うよう気を付けている。レーブ そとめ式番館の会議であるレーブ会議では、 担当者が他の職員に情報提供をしたり、意 見を聞いて検討する機会を設け、思いや意 向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	本人やご家族よりこれまでの生活歴を聞 き、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎月行うレーブ会議にて入居者一人ひとり の現状についての意見交換を行い、現状に 合わせた支援ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	モニタリングは各入居者の担当職員が行っ ている。現在はコロナの影響で家族とは電 話での聞き取りを行い、本人の状況に合わ せその人らしく生活できるよう、職員で話し 合い介護計画を作成している。	普段から入居者の話を聞くようにしており、 入居者本人や家族の意見や希望をできる限 り取り入れるよう職員で話し合い、ケアプラン に取り込むように努めている。入居者のこと をよく把握している担当職員と介護計画作成 者により、モニタリングを活かした介護計画 の作成、見直しが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの日々の様子や気付き等を記録し、職員間で共有してケアの見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況やその時の要望に応じていろいろなサービスができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市の職員、地域の警察官や自治会長・民生委員、家族代表などに参加していただき、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回ホームドクターの往診を受けている。その他必要に応じ、協力医療機関の受診も行っている。	本人、ご家族の了承のうえで、入居時にホームドクターに主治医を変更している。日中はホームドクターに相談し、夜間や休日は協力医療機関との連携体制ができている。家族への受診の報告は、定期受診は毎月のお便りにて、緊急時は電話にて行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回午前と午後にバイタルチェックを行い異常があった場合やバイタル以外でも様子がおかしい場合は、ホームドクターに連絡・相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法等に関する情報を医療機関に提供している。また、退院時には病院での様子や現状について病院関係者より情報をもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでは看取りはしない方針で重度化や急変時は協力医療機関に移っていただき、終末期を迎えること等の対応について入居時に家族へ説明している。	看取りはしない方針だが、ホームでできるところまで対応するようにしている。食事がとれなくなるなど、医療行為が必要な状態となったら、ホームドクターの判断のもと、協力医療機関へで対応することになる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時は、状況に応じて管理者かホームドクターに連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月レーブ会議後に訓練を行っている。現在コロナの影響で消防署の立ち会いによる訓練はできないが、レーブ壱番館と合同で行う機会は設けている。また、防火管理等のチェックを毎日行っている。	毎月防災訓練を行い、実施報告書を作成し、法人全体で共有できるようになっている。そのうち避難訓練については、入居者も参加している。非常時には、隣接する同法人の施設と協力して対応する体制ができている。また、独自の自主検査チェック表を作成し、毎日確認することで防火管理を徹底している。	非常時の備蓄に関して、人数に対して水、非常食の量が少ない。非常食の種類も最低限のものとなっている。今後、法人で検討し、備蓄の定数を明確にし、非常食の内容を充実されることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修等で学んだ知識を職員間で共有し、言葉かけは注意して行っている。何かを行う前には必ず本人に了解を得てから行うようにしている。	法人の高齢者権利擁護委員会による内部研修に参加し、参加できなかったスタッフにはその内容を共有するようにしている。言葉かけをする際は、相手の立場に立って、不快にさせない言葉遣いをするよう気を付けている。また、自己決定を重視し、入居者本人にまず確認して、支援や介護を行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいのか確認するようにしている。また、自己決定が困難な時はいくつか例をあげ、できるだけ本人が決めることができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、食事の時間や入浴、立位訓練等、本人の体調や希望に合わせて調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容で定期的に散髪を行っている。また、爪切りや必要な方には整容や洗顔等も支援している。入浴日や行事等の際は服装選びも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根取りやおしぼりたみ、テーブル拭き等手伝っていただいている。また、茶碗や箸など本人が使い慣れたものを持参していただき、各自違うものを使用している。食事は職員も入居者と同じものを一緒に会話をしながら食べている。	毎回、食事前に嚥下体操を行い、安全に楽しく食事をとれるよう取り組んでいる。職員の手作りの食事であるため、味付けや調理法も柔軟な対応をしている。職員と一緒に話をしながら食事をする中で、入居者の食べている様子を見て、その日の食事の感想も把握できている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した栄養バランスの良い献立に沿って、職員が手作りで提供している。また、食事以外にも10時やおやつ時に飲み物を提供したり、希望者には居室に飲水用のボトルを置き飲みたい時に飲めるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアを行っている。自分でできない方は職員が介助を行う。また、月に2回協力医療機関の歯科医や衛生士が往診してもらい、口腔ケア・義歯調整等の施行を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜共にできる限りトイレで排泄できるよう支援している。また、排泄パターンを把握してトイレ誘導したり、声掛けを行っている。	食事の前後や場面の切り替わりのときなどに定期的に声掛けを行い、支援が必要な方については、誘導、介助をすることで、退院直後の入居者を除いて、日中はおむつ使用の方はいない。夜間についても、不安があって希望される方以外はおむつを使用していない。排便については、チェック表を使って、便秘等を把握するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、便秘対策として水分補給やリハビリ体操等を促し行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	汚染したり、希望がある場合はできるだけ対応できるよう支援している。また、入浴日以外が夕方に清拭を行うようにしている。入浴の順番にも気を遣っている。	異性介助については、希望があれば、曜日をずらすことで対応している。入浴を嫌がる入居者には、トイレに行ったタイミングで声掛けを行うなどして、スムーズに入浴できるよう工夫している。希望があれば、好きなシャンプーを使用してもらい、楽しく入浴ができるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週に1回シーツ交換を行い、清潔を保ち快適にいつでも休んでいただけるよう支援している。また、入居前に使っていた寝具を使用してもらったりもしている。室温調整にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っており、個人ファイルで処方箋の確認ができるようにしている。また、処方の変更があった際は申し送りノートに記入し、職員全員が把握できるようにしている。服薬は間違いがないよう、一人ひとり確認し介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせてお願いできそうなお手伝いを依頼して役割が持てるよう支援している。また、誕生会や季節の行事やレクリエーションなどを行い、楽しんでもらえるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出や買い物等に出かける事はできないが、施設周辺の散歩や花見、気候の良い時は屋外でおやつを食べたりレクリエーションを行うなど気分転換ができるよう支援している。	コロナ禍において、法人の方針で外出はできないが、レクリエーションや行事の時間を増やし、入居者がホームの中での生活に退屈しないよう、できることを工夫して対応している。自然豊かな環境を生かして、ホームの周りで花見をしたり、おやつを食べたりして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方はご家族の了解をもらい個々の能力に応じて管理し、要望があればいつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと要望があった際は、できるだけ要望に応えるようにしている。また、行事等でご家族に依頼してメッセージカードを送ってもらったり、それに対し返事が書ける方には書いてもらいご家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には毎月季節ごとの飾り付けをしたり、廊下には入居者が作成した作品などを展示している。また、共用空間は毎日職員が掃除を行い、清潔を保ち快適に過ごしていただけるよう努めている。	勤務時間帯によって掃除の担当が決まっており、毎日清潔が保たれるよう分担されている。感染対策の空気の入替えについては、時間が決まっているが、入居者がいない時間帯になるよう設定している。普段、入居者が過ごしている居間には、職員が作成した季節の飾りに加え、入居者みんなで作成した飾りも貼ってあり、楽しく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を設置して、ゆっくり座ってテレビを見たり、おしゃべりなどできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や家族の写真、家族からの贈り物などを置き、家で過ごしているような雰囲気づくりを心掛け、居心地良く過ごせるよう支援している。	居室内の掃除機をかける担当が決まっており、転倒防止のため生活導線上に物を置かないように気を付けながら、毎日清潔を保っている。持ち込み物については、入居者主体で本人や家族と相談し、基本的に制限はない。カレンダー、本人の作品、ラミネートされた写真を飾るなどして、生活感のある部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで移動が安易にできるように工夫されているが、転倒の恐れがある方は見守り介助を行っている。また、各居室の入口には表札を設置している。		